

(意見一覧)

対象事業	意見
0049「高齢者・障害者のためのユビキタスネットワークロボット技術の研究開発」	<p>① 買い物忘れのチェックや買い物時の対話が出来、楽しんで買い物ができるなど高齢者にとっては役立つ支援ロボットと思われる</p> <p>② 重量物をもってくれることも大変結構なことと思うがもう少し移動や手のうごきがよくなればと思われる</p> <p>③ 高齢者にとって一人で買い物をするよりはロボットでも側につきそってくれることが安心感につながり買い物の機会がふえる可能性があると考え</p> <p>④ 高齢の障害者が多くなってくる日本の現状を考えれば将来ぜひ実用化してほしい技術ではないかと考える</p>
0049「高齢者・障害者のためのユビキタスネットワークロボット技術の研究開発」	<p>基本的には人間の特徴は、パスカルではないが、“考える”ことにある。人間は複雑な物事の関係性を考慮し、それを解決する”智慧”を見出す能力を有している。過去の時代には、特定の”智慧”を働かせる人間が他の無数の人間を動力源として使う悲惨な時代を長く経験し、17世紀に入って初めて、智慧を働かす科学技術(西洋が)見出し、18～19世紀には、人間の動力源としての役割を機械(動力)に委ねる産業革命を実現し、戦後は半導体の発明に代表される論理素子を、人間生活に必要なあらゆる道具に応用するなど、人と機械の”共存”の時代を築き上げてきた。これは広義の意味でのロボットと人間の関わりと定義してもよいであろう。20世紀までの機械と人間の共存の時代は、それぞれの機械は基本的に人間の利便性や欲望を満たすための単目的的機械であり、それらをいかに精密化・高度化・利便化するかに時間を費やしてきたと言える。別の表現をすれば、一般名詞としての人間社会の利便性を高めるための機械を作り上げてきた時代と言える。</p> <p>21世紀に入った現在は、モノ余り現象が生じ、モノに代わる情報(知識)を売り物にするIT産業が生まれ、目に見える物輸送から光という人間の五感をはるかに超える情報輸送によって瞬間に世界中に充満する結果となった。その結果、人間の冒険心、挑戦心という人間の生きる原動力、卑近な表現をすれば、物欲・知識欲、を著しく減退させる結果となり、必然的に生きる意欲が減退し、少子化現象を引き起こさせる因となった。他方で、医学の進歩は著しく、高齢化も同時進行することとなった。この少子化・高齢化現象は否定的に観るのではなく、素直に受けていくしかない。このことを肯定するならば、人間が生きていく上で必要な行為の中で、少子化や高齢化社会の進行によって発生する様々な必然的問題、例えば、介護・災害対策・健康管理・生活ケア、等の人が人の行動の世話をする単純な人の代役、しかもその代役が単独ではなく、お互いに連携を取りながら単純な判断は人を通さずに行えるユビキタスネットワークを築き活動できるロボットシステムの開発の要請はごく自然の成り行きと言える。この開発によって、人はさらなる高等な”智慧”の開発に向かうことができ進化できることになる。このユビキタスネットワークロボットの開発は、日本の優秀なロボット技術の蓄積によって世界に先駆けて行うべき環境におかれていると言える。このユビキタスネットワークロボット開発事業において、今から留意すべき点として、国際標準化がある。日本は、これまで情報機器の先端的な開発において、優れた技術開発を行ってきたが、標準化の争いの中で日本の技術の同志討ちや欧米に裏をかかれるという状況に何度か遭遇した経験を持っている。このような状況を未然に避けるためには、今からしっかり国際標準に向けた世界のリーダーシップをとる活動を進めておくのが良いと思う。</p> <p>私自身はATRのオープンハウスに訪れる機会に、このユビキタスネットワークロボット事業を垣間見る機会を得た。私自信が地球シミュレータという世界の計算機の在り方を変革する役割を担うという経験から、ロボット開発の理念は単に人間に如何に近い行動をまねるロボットを作ることができるかという単純な目的ではなく(技術の向上という点では評価できるが・・・)、人間という”智慧”ある動物を如何に深化させ、人類の継続的進化を如何に進め、自然と共生した社会を作り上げていくかという視点からロボット開発の在り方も考えるべきであるという思いを常々思っていた。このユビキタスネットワークロボット開発事業の存在を知り、人間の進むべき大局的観点に立った事業であり、是非とも継続・発展させていってほしいと思い、ここにパブリックコメントの一つとして書かせていただいた。</p>

(意見一覧)

対象事業	意見
0049「高齢者・障害者のためのユビキタスネットワークロボット技術の研究開発」	ロボット技術とユビキタス技術を融合させ、高齢者や障がい者が安全・安心に暮らせる社会を目指すことは今後高齢化が急速に進むわが国では非常に意義深いテーマであり、実社会に浸透するような成果創出をぜひとも期待したい。
0049「高齢者・障害者のためのユビキタスネットワークロボット技術の研究開発」	高齢化の進展とともに増えつつある高齢独居世帯では、コミュニケーションを取る相手が身近にいないことから日常的に話す・聞く機会が少ないものと思われる。日常的なコミュニケーション相手の不足は痴呆の進行等、健全な生活を送る上での妨げとなり得るうえ、緊急の際の救急等への連絡が困難になるなどの問題をはらんでいる。本研究はロボットの活用によりそのような問題を解決するものであり、今後の将来性、必要性は極めて高い。ぜひとも研究継続をお願いします。
0061ユビキタスタウン構想推進事業	モバイル機器やソフトウェアの進化と一般への普及に伴い、街なかでネットワークに接続し、容易に情報を得られる時代となってきている。しかし、現状では様々な種類の端末で横断的に利用できるコンテンツが少なく、真に利用者にとって利便性の高いものになり得ていないという印象がある。本事業の推進により、機器間のシームレスな利用が可能になり、全ての人にとってICT技術が身近で使いやすいものとなることを願っている。
0049「高齢者・障害者のためのユビキタスネットワークロボット技術の研究開発」	わが国における少子高齢化に伴う人口減(特に現役世代の人口減)をサポートするには、表記の事業が必須である。また技術分野において中国や韓国など他の東アジア諸国の追従が激しい中、国際的にわが国のプレゼンスを強化するためにも是非国を挙げて取り組んで頂きたい事業である。
0049「高齢者・障害者のためのユビキタスネットワークロボット技術の研究開発」	ロボット研究では介護ロボットなど身体的支援が多く行われている。しかし、5人に1人が独居老人という生活環境を考えると、コミュニケーションを活性化するロボット技術は、よりニーズも市場も大きく、より重要と考える。

(意見一覧)

対象事業	意見
0049「高齢者・障害者のためのユビキタスネットワークロボット技術の研究開発」	人にやさしいロボット技術の研究開発を推進して欲しい。今後予想される少子高齢化社会において、日本の労働人口が減少し、ロボットが担う役割はとて大きなものになると思われる。そんな状況の中、将来に備えて複数のロボットが協調・連携して生活支援をする技術を確立することは、とても重要なミッションだと思います。ぜひ、高齢者や障害者が安心して暮らせる社会を目指して、日本の頭脳と技術を結集し、ユビキタスネットワークロボット技術の研究開発を推進して欲しいと思います。
0049「高齢者・障害者のためのユビキタスネットワークロボット技術の研究開発」	今後、ますます高齢化が問題になると思われるが、高齢者を助ける仕組みやサービスは、高価であつり、使い勝手が悪かったりする。「高齢者・障害者のためのユビキタスネットワークロボット技術の研究開発」事業などを用いて、人や物の動きを予測して安全を確保するようなセンシング＋予測技術を、特定の環境だけで使用できるのではなく、クラウドを用いたサービスで安価に提供できるようなシステム作りを行ってほしい。
その他	新たな情報戦略の中で、「徹底した業務改革」と「費用対効果」が指摘されています。ただ、単に、さまざまなシステムを統合するだけでは、安易に「クラウドコンピューティング」のブームに乗っただけの、システムの寄せ集めにすぎなくなりおそれがあります。これまでも「システムの最適化」を名目にさまざまな政府のシステムの開発が行われて、さも効果があるかのような報告がされているようですが、国民感覚からいえば、本当に報告のような効果があるのか分からないというのが正直なところ。昨年、総務省のオンラインシステムがこの総務省内の仕分けで廃止された例もあるように、システムの中には、不要なものもあるかもしれません。単純に今あるさまざまなシステムを集約統合するのではなく、その業務やシステムが本当に必要なのか、事務処理の方法については合理的なフローチャートが描けているかなどを十分精査した上で統合・集約化を図るべきです。そして、目に見える形で効果を示してください。目に見える形とは、ただ単に●億円節減効果があるという、はじめに結論ありきの怪しげなものではなく、効果の刈り取り(例えば、●人分の公務員の削減を達成したとか)をしてください。よろしくお願いいたします。